

●「動物愛護について ～わたしたちに出来ること～」（マネジメント大賞受賞）

皆さんは動物を飼ったことがありますか。私たちはペットとして犬や猫を飼ったことがあり、全員動物が大好きです。現在メディアでは動物を取り上げている番組などが多くあり、日頃からよく目にすることがあります。その背景にあるのは、近年加熱しているペットブームです。しかし、その裏では、動物虐待、放置などの問題があります。そこで今回、高知県の動物愛護の現状と私たちが彼らにできることについて調べることにしました。

高知県では年間犬 1,694 頭、猫 5,929 頭が殺処分されています。人口当たりの捨て犬、捨て猫が処分される割合は、全国で高知県がワースト 1 位です。そこで、帯屋町にいる 100 人の方を対象にアンケートを取りました。「今までに捨て犬、捨て猫を見たことがありますか」の質問に「はい」と答えた方は 87%、「いいえ」と答えた方は 13%でした。では、約 9 割の人が見たと答えた捨て犬、捨て猫はどのような理由で捨てられてしまうのでしょうか。1 位 計画外の繁殖 51%、2 位 不明 17%、3 位 飼育者の病気・入院 7%。2 位の不明とは、飼育する目的がなくなったなどの理由です。

次に、「捨て犬、捨て猫を拾ったことがありますか」という質問をしました。先ほどの質問で「見たことがある」と答えた人が 87%だったことに対し、この質問で「はい」と答えた人はその半数以下の 39%でした。そのことから、約 5 割の人が彼らを見て見ぬふりをした、または何らかの理由でそのままにしたということが考えられます。では、そのまま放置された犬、猫はどうなってしまうのか。

私たちは、飼い主が分からない野良犬や野良猫が管理されている高知市小動物管理センターを訪れ、職員さんが丁寧に教えてくださいました。動物の愛護および管理に関する法律など、私たちが思っていた以上に問題は複雑に規制されていて、改めて考えさせられました。お話を聞いた後、実際に犬や猫たちがいる犬舎を見学させていただきました。犬舎の外には子犬がいて、その子たちは譲渡会に出すとおっしゃっていました。譲渡会は月に 1 回行われていて、ここに連れてこられた犬、猫たちの新しい飼い主を見つけるものです。このとき、また同じことが繰り返されないよう、職員さんたちが注意を促しています。しかし、成犬や人馴れしていない犬、譲渡会でもらわれなかった犬たちは数日後処分されてしまいます。



ドイツでは、動物の殺処分数が 0、処分場も 0 です。動物を飼いたい人は国が指定するブリーダーか動物孤児院に行き、動物を譲り受けます。動物孤児院とは、保健所のようなところですが、そこでは処分という言葉はなく、もらわれていくか、そこで生涯を過ごすかのどちらかです。ドイツでは、動物ではなく飼い主のしつけや犬税、アニマルポリス、公共の施設などで飼育をするなど、動物を飼うことの責任の重さを訴えかけています。これらにより動物に対する関心が高く、トラブルが起きにくいのです。かつて、熊本市では高知市と同じように処分数が多く、問題になっていました。しかし、今年処分数が 0 になりました。処分数を減らすのではなく、0 にすることを目標にし、取り組んだ結果だそうです。私たちは熊本市の方からお話を伺いたいと思い、電話でインタビューをさせていただきました。まず、

「なぜ0を目指そうと思ったのか」という質問をしました。一番の理由は、平成12年に国で法律が改正されたのを受け、熊本市動物愛護協議会を作ったからです。これは、保健所と愛護団体の結びつきを強くし、譲渡する犬を1匹でも増やそうというものです。次に、「0にするために具体的にどのような取り組みをしているのか」という質問をしました。譲渡会が行われる日時を詳しく宣伝したり、ホームページ上で1頭1頭その犬の性格などを詳しく掲載するなどの啓発運動に取り組みました。

高知県の現状、他国、他県の取り組みなどを調べた上で、私たちが提案したいことは二つです。提案1、ペットショップやブリーダーなどで、買い手に誓約書のようなものを配付してもらう。この提案から自分たちで誓約書を制作しました。「1から10の約束」は「The Ten Commandments of Dog Ownership」を日本語にしたものです。そこで、実際にペットショップへ行き、私たちが作った誓約書を提案してきました。「私たちもそのようなものを作って渡しています。以前は口頭のみでしたが、文字にすることで更に伝わりやすくなると思います」とのことでした。提案2、公共の施設で飼育する。飼い主のいない犬、猫を刑務所や小学校などで飼育します。犯罪者の改心につながり、子供の頃から動物と触れあい飼育することによって、愛護心・責任意識を持つようになります。これを職員さんに提案してみると、「いい提案ですね、実際にドッグセラピーといって既に行っているところもあります」とのことでした。

今回私たちがマネジメント学習で発見したことは、まず社会は繋がって成り立っているということです。何か問題を一つ取り上げただけでも、経済的な課題や法律面での問題など様々な障害が二重にも三重にもなっています。次に、伝えることの難しさ、大切さです。この半年間で調べたこと、伝えたいと思ったことを全て発表することは難しいことです。限られた時間の中で、どうすれば私たちの思いが伝わるのかと試行錯誤を繰り返し、今日に至りました。それらの発見を含め、普段の学校生活で感じることのない社会は、私たちにとっても貴重な体験となりました。

最後に、今日も、もしかしたら今この瞬間も、どこかの自治体の動物愛護センターでは小さな命がなくなっていきます。その悲惨な現状を作ってしまったのは私たち人間であり、彼らを助けることができるのもまた、私たち人間です。かわいそうと思うだけではなく、具体的な行動を起こしましょう。今日私たちが発表したこの現状を友達や家族、身の回りの一人でも多くの人に伝えてください。知ることから意識は変わっていくのです。そして、動物と共存する明るい高知県、高知南中・高等学校から発信していきましょう。